

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870700345
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホームはるか
所在地	大洲市春賀甲1666-1 Tel0893-26-1165
自己評価作成日	平成22年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族に協力を得て、利用者と過ごす時間を設け、食事会や外出行事を共に行っている。
毎月の行事や日常の様子等の写真とコメントを掲載した「だんらん新聞」を作成し、地域各事業所に発行している。
日常生活の中で、余暇活動を取り入れ、楽しみながらレクリエーションを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者の誕生日は、お墓参り等、「行きたいところ」に出かけられるよう支援されている。利用者の友人や知人の訪問があったり、同窓会や地区の敬老会に参加される利用者もある。有償ボランティアを利用し、お墓参りに行かれた利用者もおられる。
●3月に、職員とご希望の利用者で演歌歌手のコンサートに出かけられた。6月は、市内の菖蒲園に出かけられた。本年は、利用者一人ひとりが職員と共に「かまぼこ板の絵」を作成し出展されており、城川町で開かれる秋の展覧会に、みなで見に行かれる予定である。事業所の裏山では、四季折々のお花を楽しむことができ、この季節は、紫陽花を楽しみに散歩されるようである。
●2ヶ月に1回、事業所独自で行われる避難訓練では、日時を決めずに抜き打ちで行い、利用者の居場所等、いろいろなケースで訓練をされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームはるか

(ユニット名)

1ユニット

記入者(管理者)

氏 名

西本 恵子

評価完了日

H 22 年 6 月 7 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自分らしく和やかに今を生きる」理念の基 認知症介護の質の向上 認識の統一を図るため、理念の統一した解釈が出来るよう職員間で研修を含めて再度話し合っ、理念の共有実践につなげている。 (外部評価) 事業所では「理念に沿った支援を行う為の基本姿勢・重要事項」として「ご利用者の声に耳を傾ける」等と書かれた紙を事務所の扉の内側に貼り、職員は一日の仕事が始める前に読むようにされている。又、年度始めには、職員個々に目標を立てて、理念の実践に努めておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域総会の時に運営者は、事業所の紹介をし、理解や協力をお願いしている。地域の行事（地方祭、夏祭り、お寺の行事・敬老会）など利用者と共に職員も参加して楽しませてもらっている。又準備の夏祭りのやぐら設置や、祭り前などの清掃活動にも 事業所の一員として参加している。 (外部評価) 毎月、事業所独自の「だんらん新聞」を発行し、事業所の行事や日常の利用者の様子の写真を載せて、地区の回覧板で地域の方に知らせておられる。計画を立てて、毎月2名ずつ職員と地域の商店で買い物を楽しめるような機会を作っておられる。三味線を聴かせてくれる地域のボランティアの方の訪問や幼稚園児の訪問もある。又、ご近所の方が野菜を届けてくださることもある。法人の20周年行事としてデイサービスで「原田泰治ふるさとの心展と国際絵画展」を開催された際には、3日間で地域内外から1,800人ほどの来場があり、中にはグループホームを見学された方もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所では、地域の人々に認知症についてや 介護力を活かしてもらえよう介護教室を行なった。今後も地域に活かしていきたい。四季報はるかを4000部発行し事業所の情報を伝えている。GHだんらん新聞を地域に配布し、認知症の理解や支援の方法を地域の人にお知らせしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 構成員の増員を図り、情報の提供や幅広い意見を受けて、情報 を共有し、サービスの向上に活用している。新メンバーも加 わったので写真を放映し利用者を知って頂いた。	
			(外部評価) 今年度、会議には、小学校の校長先生と公民館長の方にも出席 をいただいております。小学生との交流の提案をいただいたり、地 域行事の情報を教えてもらい、事業所と地域との関わりが拡 がっているようだ。4月の運営推進会議では、一年間の事業所 での様子をスライドショーにして、利用者も全員参加して、大 きなスクリーンで観覧された。さらに、外部評価結果やヒヤリ ハット事例の報告等をされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域密着型サービスとして、運営推進委員会以外でも、年3～ 4回、在宅サービス担当者会を開催して頂き、情報交換や制度 など、あらゆる面に説明を受けている。介護相談員も毎月来て 頂き、お話をされたり、話を聞いてもらったり、一緒に余暇活 動に参加してもらっている。	
			(外部評価) 市の担当者には運営推進会議に参加いただき、市の介護保険の 利用の現状や外部評価結果を報告された際には、具体的な助言 をいただいた。運営推進会議に地域からの参加者を増やすこと を提案して下さったことをきっかけにして、小学校の校長先生 や公民館長の方に呼び掛け、参加いただけるようになった。介 護相談員訪問の際には、利用者とともに散歩やおやつ作り・生 け花の指導をしてくださることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員身体拘束について理解しており、身体拘束排除マニ アルがあり、全員で取り組んでいる。玄関に感知式のセンサーを 設置しているが、利用者が外出されそうな様子を察知したら、 止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒に同行する など、安全面に配慮しながら鍵を掛けない自由な暮らしを支え るようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸にされ、開閉すると風鈴が鳴るように されていた。「もう帰ります」と出かけられる利用者には、昼 間であれば職員と一緒に出かけ、利用者の動きを止めることなく 支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修で虐待について学んでいる。虐待が見過ごされないように注意を払い、虐待防止の徹底に努めていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば積極的に参加して学ぶ機会を持っている。現在1名成年後見人制度を利用されているので職員も理解できている。必要な方ができれば、関係者と話し合いながら、活用できるように対応していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分説明を行ない、同意を得ている。又、事業所で出来る事、できない事を明確に伝え、家族のトラブルがないよう、事前に説明している。契約前に見学や体験入所もして頂き、理解、納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に、外部へ連絡が取れるように説明し、記載してある。又、介護相談員2名の(1ヶ月に1度)訪問があり相談できる体制となっている。又、家族会があり、利用者・家族が意見・不満・苦情が出し易い雰囲気心がけている。「家族の声」が大切である事を職員で話し合っている。その他にも法人内で苦情委員会を開催し、外部の方に報告し、年2回アドバイスを受けている。 (外部評価) 家族会は年3回行われている。4月に行われた中山町のフラワーハウスへの遠足には、6家族の参加があり、利用者とともに楽しまれた。職員は、ご家族から意見や苦情が出た際には、職員皆で話し合い改善に向けて努力をされている。臭い等について、ご家族からご意見があった際には、夜間や起床、排泄時等、着替えすることを支援してケアの改善に取り組まれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回、法人全体の職員会と、GH内の定期ミーティングで、全体のことについて報告したり、意見を聞いたり、提案があれば話し合う環境を作っている。又、個人に意見なども聞いてスムーズに仕事出来るよう心がけている。「報告・連絡・相談・結果報告」 (外部評価) 職員は、毎月のミーティング等で利用者個々への対応等の意見を出し合い、話し合われて取り組まれている。外部研修に参加した職員は、ミーティング時に研修で学んだことを発表して、みなで共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業計画に基づく、目標管理シート、業務管理シートの作成により、仕事への意欲と能力向上 目標設定し職員の育成に努めている。（人事考課も行なっている）	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人トップより定期的に計画を立て、職員研修を実施している。法人の基本方針・社会的ルール・マナー・制度について等、幅広くあり、人材育成に努めている。又、外部研修に全職員が参加出来る様にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ①運営推進会議構成員として、お互いに訪問して交流を行なっている。②市やGH協会の研修会や担当者会があり、情報交換を行なっている。③担当者会で話し合い昨年より毎月、各事業所の訪問を実施している。④地域の同業者と相互の見学・交流をし、情報交換をしたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族が安心して頂けるよう、傾聴・受容し、意向を十分受け止めた上で話し合いを行なっている。本人に受け入れていただくよう職員との関係作りを大切にしている。また、信頼関係が築けるよう、話し方やト音・目線や表情など、話し易いような雰囲気作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の意向・不安などを受け止め、ここでの生活状況を説明し 信頼関係を築き、安心した生活が送れるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な支援を明確にし、本人や家族の思いを受け止め、相談に応じた。必要であれば他事業所のサービスにつなげる対応を行なった。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の意欲などを尊重し、介護に当たっている。又、レクリエーションや外出など暮らしを共にする者の立場で考え、他者との交流・関係を築いていけるよう配慮した。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会などを通じ、家族と本人が共に楽しめ、絆を深めあえるよう支援し、また職員が一方的に支援していくのではなく、家族にも支援して頂くなど関係作りに心がけた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族などの協力を得ながら、馴染みの人や場所・昔ながらの店等、関係が途切れないよう配慮・尊重し、本人が満足されるよう努力した。 (外部評価) 利用者の誕生日は、お墓参り等、「行きたいところ」に出かけられるよう支援されている。利用者の友人や知人の訪問があったり、同窓会や地区の敬老会に参加される利用者もある。有償ボランティアを利用し、お墓参りに行かれた利用者もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者一人ひとりの表情や状態、性格や関係を把握したうえで、利用者間での訪室の援助や、良い関係が築けるように働きかけ、仲立ちを行なっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院となり契約が終了となってもお見舞等に伺っている。また亡くなられて相談を受けた時には、対応に努めた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常のコミュニケーションの中から、本人の意向や思いをくみ取り、記録に落としたりミーティングやケアカンファレンスで話し合ったりし、情報の共有・利用者の思いの実現に向けての検討を行い、家族の方や知人の方からも情報を頂いている。 (外部評価) 散歩時に、利用者のお一人がお地藏さんの前で般若心経を唱えられたことから、信心深いことを知ったり、又、花を生けている時に以前は、生け花の先生をされていたことが分かった等の情報は、日々の記録に残すようにされている。事業所独自で写真入りアセスメント表を作成して、ご本人のできる事や生活歴、好み等の情報を収集されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ケアカンファレンスや家族の面会時、生活歴や暮らし方、好み等を教えて頂き、より一層、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者状況チェック表（生活一覧）を再度作成し、毎日記入しながら生活援助を行なう事で、介護員が利用者全員の一日の過ごし方が分かりやすく一覧で見ることができる。又、毎朝晩の申し送りにより、スムーズに職員に現状把握が出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、職員ミーティング時にケアカンファレンスを行ない、全職員の意見交換・提案などが活かされている。又、モニタリング(3ヶ月に1回)を実施。ご家族・本人・職員参加してのサービス担当者会を定期的に開催し、ケアプランの作成・見直しを行なっている。又、毎月ケアカンファレンスを実施し、本人・家族・医師の意向や意見も含めて、新たな計画の情報収集・意見交換を行ない、新たな計画に活かしている。 (外部評価) 介護計画は、基本的に6ヶ月毎に見直しをされており、担当職員がご本人やご家族の意見を聞き取り作成されている。3ヶ月に1度のモニタリングでは、計画についての満足度をご本人とご家族に4段階で評価していただいている。ご家族からは、「転倒に気を付けてほしい」というような意見が多く、転倒予防の体操を日々の中に取り入れておられた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し、状態観察記録はエピソード・医療関係の記録を行なっている。又、利用者状況一覧表で、一日の利用者の方の生活スタイルが一目で把握できるようになっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 空室がある場合は入居宿泊体験ができるようになっている。本人・家族の状況に応じて、受診・送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。(家族同行困難時は、職員同行にて法人内介護タクシー利用)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 法人内にデイサービス・在宅支援センター等在宅サービス事業がある。必要時には介護タクシーを利用し、外出拡大の支援を行ったり、家族との外出を支援している。地域の介護相談員さんに毎月来て頂き、利用者の生活の様子等、協力しながら支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医の往診が2週間に1回あり。状態の変化に応じて受診や 往診を依頼している。適切な医療を受けられるよう主治医・家 族との連携を密に行なっている。必要に応じて家族同伴の時も ある。	
			(外部評価) 全ての利用者は協力医に診てもらっており、緊急時等、24時間 体制で連絡が取れるようになっている。専門医の受診には、基 本的にはご家族が付き添うことになっているが、ご家族の都合 に応じて、職員が同行されている。法人の福祉施設に週1回歯 科医が往診に来ており、希望する利用者は診てもらえるよう になっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 主治医と連携を図りいつでも気軽に相談できるようにな っている。現場にも正看護師を配置している。また 他事業所の看護師にも協力していただいている。	
			(外部評価) 利用者が入院された場合には、担当者をはじめ介護職員 が面会に行き、入院時の状態把握・家族への支援に 努めている。病院からの退院サマリーで不明な点や留 意事項は医療機関への相談を速やかに行うようにして いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合には、担当者をはじめ介護職員 が面会に行き、入院時の状態把握・家族への支援に 努めている。病院からの退院サマリーで不明な点や留 意事項は医療機関への相談を速やかに行うようにして いる。	
			(外部評価) 主治医・家族との連携を図り、いざという時に早期対応が出来 るように早い段階から状態の変化について話し合いをしてい る。症状悪化時、家族と主治医・本人・GH職員で今後の話 し合いを持っている。GHで対応出来ること・出来ないこと (医療行為)を職員一人ひとり周知している。又、家族会で集 まって頂いた際、終末期のあり方について、ご家族の方の意見 も伺っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医・家族との連携を図り、いざという時に早期対応が出来 るように早い段階から状態の変化について話し合いをしてい る。症状悪化時、家族と主治医・本人・GH職員で今後の話 し合いを持っている。GHで対応出来ること・出来ないこと (医療行為)を職員一人ひとり周知している。又、家族会で集 まって頂いた際、終末期のあり方について、ご家族の方の意見 も伺っている。	
			(外部評価) 入居時、ご家族には、事業所として終末期にできること、でき ないことを説明されている。昨年の11月に医療連携体制を整え た際にも説明され、さらに、春の家族会時等ご家族が集まる際 には、終末期のあり方等について話し合うようにされている。 「最期まで事業所でお願したい」と考えているご家族もあり、 医療行為が発生しないようなら事業所での看とり支援も可能 であることを伝えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急事態のマニュアルがあり、全ての職員が把握できており、対応することができる。また、母体施設を中心に全体でも、行政関係者・消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生技術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。平成20年度より、母体施設にAEDを設置し、施設だけでなく、地域の方への呼びかけを行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回利用者と共に避難訓練を実施している。また、自動通報装置を設置しており、速やかな対応に努めている。実施するごとに見直しを行ない、より良いマニュアル作成に取り組んでいる。また、消防署の協力を得て、訓練について定期的に指導して頂いており、法人全体の協力も得ている。又、地域消防団の方にも火災や災害時等協力して頂けるようになっている。※スプリンクラー設置検討中。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施されている。2ヶ月に1回、事業所独自で行われる避難訓練では、日時を決めずに抜き打ちで行い、利用者の居場所等、いろいろなケースで訓練をされている。近所に消防団長がおられ、いざという時は駆けつけてくださるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の誘導・介助の確認や失禁の対応については、不安や羞恥心・プライバシーに配慮している。申し送りについても利用者のいる所では行わないよう配慮している。 (外部評価) 「だんらん新聞」への利用者の写真の掲載について、入居時にご家族に了解を得ておられる。調査訪問時、職員は利用者と一緒に線をはわせて声をかけておられる様子がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のリズムに合わせた声掛けを行ない、意思表示が困難な方には、ジェスチャーや表情・筆談などを行ない、細かな本人の意思を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の体調や生活ペースに合わせ、又、本人の気持ちを尊重した個別性のある支援を行なっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者に合わせ、理・美容室の利用の支援を行なっている。また、ホーム内で気軽におしゃれができるよう出張美容サービスを利用している。又、ショッピングに行った際、自分で好みの洋服などを選んで頂いている。又、常に清潔を心がけ、身だしなみ等細かな支援を行なっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 白板に記入した日付け・メニューなどを毎日当番制で毎日順番に言って頂き、「いただきます」の声掛けを行って頂いている。食事中混乱する方や一気に食事をされ誤嚥の危険がある方には、職員が側で食事を共にしてさりげなく目配りやサポートをし、食事がゆったりと楽しめるように心掛けている。又、後片付けは利用者の体調を見ながら一緒に行なってもらっている。 (外部評価) 朝食と夕食はすべて事業所で作られ、朝食の主食はパンとご飯を選べるようになってきている。昼食の副食は、法人からできたものが届けられ、きざみ食やミキサー食への対応は、事業所でされている。ご家族が釣った魚や山菜を届けてくださることもあり、旬のものや新鮮な食材を楽しまれている。晩酌を楽しむ方もある。調査訪問時、ご自分のお膳を下げる方や職員が洗った食器を拭いている利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表の作成により、栄養のバランスのとれた食事が摂取できている。摂取量が少ない場合、補助食品にて対応している。又、水分補給も個々の好みに合わせた物を提供する事で、水分量が確保できるよう努めている。食べる量・水分摂取量については毎日確認しながらチェックさせて頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの声掛けは行なっているが、朝・昼の口腔ケアの習慣が付いていない方や困難な方もおられる。うがいも困難な方は水分補給をして頂く事で口腔内に残碎物が残らないよう努めている。(義歯洗浄週二回実施)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、早めにトイレの声掛けを行なう等、自立に向けた支援を行なっている。また、排泄・排尿パターンの確認・チェックを行ない安心して排泄が促せるよう環境作りに努めている。	
			(外部評価) 利用者それぞれの排泄のサインを見逃さないようにして、トイレ誘導をされている。夜間は紙パンツを使用される方も、昼間は布パンツにパットで対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防の為、牛乳や食物繊維の多い食材をおやつに取り入れている。又、栄養士による献立表作成により、バランスのとれた食事を提供する事が出来る。また、毎日、ラジオ体操や歩行訓練を行ない便秘予防に努めている。	
			(外部評価) 入浴希望者は中止日以外、毎日入浴して頂いている。入浴が好きでない方には無理な声掛けはせず、声掛けや対応の工夫等を行なって気持ちよく入浴出来るよう努めている。事業所の特質を活かし、入浴困難者は特殊浴を利用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴希望者は中止日以外、毎日入浴して頂いている。入浴が好きでない方には無理な声掛けはせず、声掛けや対応の工夫等を行なって気持ちよく入浴出来るよう努めている。事業所の特質を活かし、入浴困難者は特殊浴を利用している。	
			(外部評価) 基本的に週2回の入浴となっている。利用者からの希望があれば、その他の日でも入浴できるようになっているが、ご自分から入浴を希望される方は少ないようである。浴槽に入ることがむずかしいような方には、併設デイスサービスの機械浴を使用して入浴支援されている。髪質に合わせ、好みのシャンプーが使われる方もある。	職員は、汗をかいたらシャワーを浴びたり、又、体を拭いたり、気持ちよく過ごせるような支援にも配慮していきたいと考えておられた。この機会に「入浴を楽しむための支援」について職員で話し合い、利用者個々が気持ちよく入浴したり、日々を過ごすことができるような支援の工夫について話し合われてみてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調不良や足の浮腫がある方には声掛けをし、ベットで足を高くあげて休んで頂く等の支援をしている。日中はレクリエーション活動や本人の興味のある事や好きな活動をして頂き、生活のリズムを作り安眠に繋げている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表を作成し、いつ何を飲まれているのかが一目でわかるようにしている。また目的や副作用等が記載されている用紙がある。職員の申し送りでも確認している。症状の変化にも留意し、主治医との連携を取りながら本人に合った服薬・調節を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう、個々の得意な分野や好きな事を活かした役割をして頂いている。仕事を頼んだ場合には、感謝の気持ちを伝え本人のやる気に繋げていけるよう努めている。地域行事への参加や外出(家族の方も一緒に行かれる事もある)など楽しみな事を利用者と共感できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や天気に応じ、気分転換を図れるように日常的な散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて外出を企画し、ストレス発散・四季を感じてもらっている。 (外部評価) 3月に、職員とご希望の利用者で演歌歌手のコンサートに出かけられた。6月は、市内の菖蒲園に出かけられた。本年は、利用者一人ひとりが職員と共に「かまぼこ板の絵」を作成し出展されており、城川町で開かれる秋の展覧会に、みなで見に行かれる予定である。事業所の裏山では、四季折々のお花を楽しむことができ、この季節は、紫陽花を楽しみに散歩されるようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分の財布からお金を出したり、小額を手元に持たれていることでの安心感や満足感に配慮している。家族よりお金を預かり事務所で管理させて頂いている利用者の方には、外出や行事などではお金を手渡し、自分で支払いをして頂くなどの工夫をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や友人等に電話をしやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行なっている。また会話が他の利用者に聞こえないよう事務所での利用をして頂いている。又、耳の聞こえにくい方には職員が間に入り、伝えたい事や聞きたい事が解るよう努めている。年賀状や暑中見舞い、お礼状など手紙を出す為の支援を行ない、利用者の思いを汲み取り支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を玄関やテーブル・洗面台等に生け季節を感じて頂けるような雰囲気づくりをしている。また、中庭にスペースがあり、プランターに花や野菜と一緒に植え室内からも季節を感じれるよう工夫している。カレンダーや行事案内を掲示し、利用者にわかりやすいように工夫している。又、入浴時、浴槽から季節折々の景色や花々を眺めることができる。 (外部評価) 居間の中央には中庭があり、ガラス張りの窓からはその日の天気や季節の移り変わりが感じられるようになっている。調査訪問時は、強い雨が降っており、利用者同士「よく降るねえ」と外の様子を気かけながらおしゃべりしておられる様子がうかがえた。居間の一角に畳スペースがあり、利用者が足を伸ばして体操されたり、お昼寝される方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や談話コーナー等、建物の一画一画に椅子を置き、誰でも休める空間を作り、一人でゆったりと過ごしたり、仲の良い方同士で過ごすことができるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物・必要とする物を持って来て頂き、居心地が良く不安を与えない居室作りに配慮している。また、本人の作品や家族等が面会に来た際には一緒に写真を撮り適時飾ったりと工夫している。 (外部評価) ご家族と一緒に撮った写真を飾られている方や散歩時に切ってきた紫陽花を花瓶に生けておられる方もあった。ご主人のお位牌を置かれている方もおられた。本のお好きな方は居室で読書をされることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人にとって「何が分かり難いか」「どうしたら本人の力でできるのか」を追求し環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合は適時、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せる環境作りができるよう試みている。	